

# 第16回桜島地域における義務教育学校整備検討委員会 先進地視察報告



令和5年12月6日(水)  
鹿児島市教育委員会学校整備室

本資料は視察研修についての報告になります。桜島地域における義務教育学校の取組については、今後、調査・研究した上で、検討していくことになります。

# 視察のねらい

公立学校で先進的にカリキュラム改革に取り組む  
学校の視察を通して、

**時代観、教育観、子供観を  
アップデートする。**

1 日目 高知県香美市立大宮小学校  
高知県香美市立香北中学校

国際バカロレア  
(IB教育)

2 日目 高知県高知市立  
義務教育学校土佐山学舎

土佐山学  
(生活科・総合的な学習の時間)

3 日目 広島県福山市立常石ともに学園

イエナプラン

# 特色ある教育活動

## 1日目 高知県香美市立大宮小学校、香北中学校

国際バカロレア  
(IB教育)

- ・ 国際的な視野をもつ人の育成
- ・ 全人教育（人間力ももとめられる）
- ・ 国際的な教育プログラム、英語教育
- ・ 課題発見解決型、教科横断的な学び

## 2日目 高知県高知市立義務教育学校土佐山学舎

土佐山学  
総合的な学習  
の時間  
(生活科・)

- ・ 教科等を超えた横断的・総合的な学習
- ・ 探究的な学習、協働的な学習
- ・ 探究のプロセスを繰り返し行う  
(①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現)

## 3日目 広島県福山市立常石ともに学園

イエナプラン

- ・ 一人一人を尊重し、自律と共生を学ぶ
- ・ 異年齢集団の学級編成
- ・ 4つの基本活動に基づいた時間割
- ・ どこでも学べる・くつろげる空間

# 香美市立大宮小学校 ～概要・背景～

## 全国の公立小学校で初の I B 認定校



- ◆学校教育目標  
自分らしく 自分で動く 大宮っ子
- ◆児童数 156人
- ◆教職員数 24人

- ・香美市全体で探求的な町づくり  
→ **I Bと国、市の教育との高い親和性**
- ・令和3年1月に初等教育プログラム（PYP）の認定取得
- ・オーストラリアに姉妹校（小学校、I B認定校）
- ・もともと地域に根差した総合的な学習の時間が充実
- ・高知工科大学との連携、外国語教育が自然と強化

# 香美市立香北中学校 ～概要・背景～

R4にMYP認定 IBで9年間の学びを繋ぐ



- ◆学校教育目標  
人間を大切にする  
～信じる・思いやる・探求する～
- ◆生徒数 76人
- ◆教職員数 26人

- ・令和4年に中等教育プログラム（MYP）の認定を取得。
- ・3年生では、すべての学びの集大成となるコミュニティプロジェクトに取り組む。
- ・IB保護者アンバサダーチーム主催による座談会の開催。  
IB教育について、学校・家庭・地域が語り合う場が設定。
- ・遠距離通学者のための寄宿舎がある。

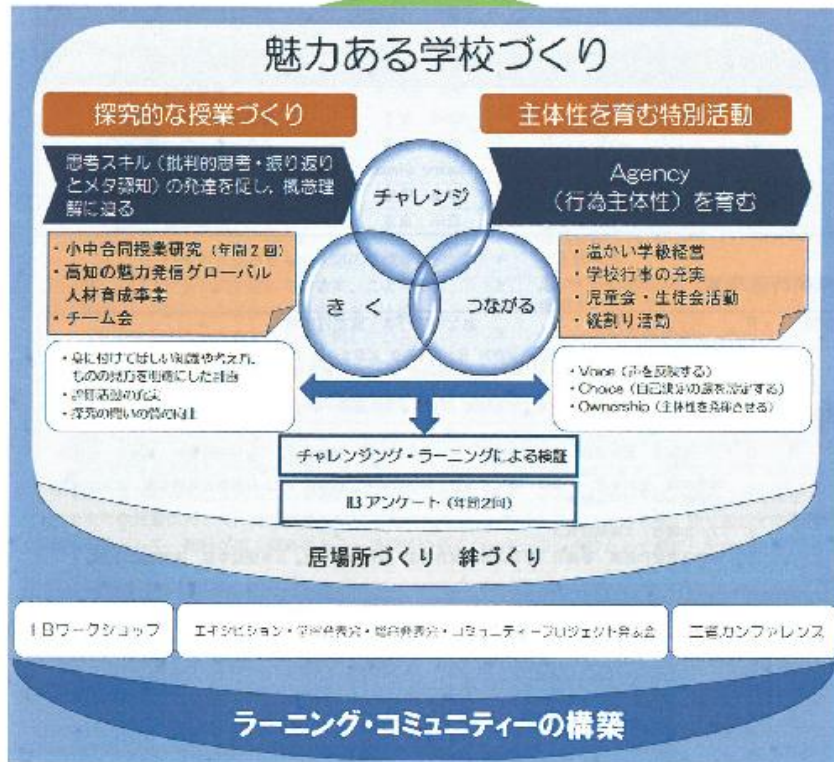
# 国際バカロレア教育で繋ぐ9年間の学び

R5 小中一貫教育グランドデザイン (香北中学校区) 国際バカロレア教育で繋ぐ9年間の学び	
<b>目指す子ども像</b> 10の学習者像を目指す子どもの育成	・探究する人・知識のある人・考える人・コミュニケーションが得意な人 ・自信をもつ人・夢を叶える人・思いやりのある人・挑戦する人 ・ハラスメントの防止に人・前向きな人
<b>学校教育目標</b> 【大宮小学校】 自分らしく 自分で動く 大宮っ子	【香北中学校】 人間を大切にする へびじる・思いやる・探究する〜
<b>地域の特色</b> ○自然が豊かで、探検のフィールドが豊富にある ○歴史から学べる文化が多く、多様な文化が醸成されている ○地域が積極的に学校を支援してくれる ◆調音科、空中高輪が盛んでいる	<b>児童・生徒の実態</b> ○1日学校としての自信が身についている ○課題に対して主体的に関わりあつてくれる者が多くいる ○高い志を持って進んでいる生徒、人材の裾野が広がっている ◆探究学習の取組が盛ん

探究心、思いやりの心を持ち、自己調整できる学習者の育成を目指します！

## 【香美市小中一貫教育】

- 「一人で学び続ける力」 & 「共に学び続ける力」の育成
- (1) 教育目標の一貫性
  - (2) 系統的な学習
  - (3) 児童生徒理解の一貫性



香北中学校区の特徴である  
**国際バカロレア教育**を  
 生かした小中一貫教育の実現

# 大宮小学校 ～教科の枠を超えた6つのテーマ～

初等教育プログラム（PYP）は、教科の枠を超えた、次の6つのテーマを探究する。

- 私たちは誰なのか
- 私たちはどのような場所と時代にいるのか
- 私たちはどのような仕組みになっているのか
- 私たちはどのように自分を表現するのか
- 私たちは自分たちをどう組織しているか
- この地球を共有するということ

このテーマを6年間、繰り返して学ぶ。



# 大宮小学校 ～教科の枠を超えた探究のプログラム～

2023 Programme of Inquiry

学年	①	②	③	④	⑤	⑥	
1	セントラルアイデア 私たちの生活は人々の手で築かれてきた 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	私たちの生活は人々の手で築かれてきた 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	生物は互いに繋がっている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	生物は互いに繋がっている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	生物は互いに繋がっている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	生物は互いに繋がっている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	生物は互いに繋がっている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲
2	セントラルアイデア すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	すべてのシンボリックメッセージがこめられている 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲
3	セントラルアイデア ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	ものの見方の視点が、深い理解につながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲
4	セントラルアイデア 未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	未来に向けた探究である 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲
5	セントラルアイデア 個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	個々の経験や行動は、互いの生活とより深くつながる 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲
6	セントラルアイデア 一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲	一人ひとりが地球人としての役割をもち、世界をよりよくする 探究の必須項目 基礎の基礎と基礎 Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry 探究の範囲



How we are  
How things are done  
Showing the world

How we organize ourselves  
Where we are in place and time  
How we express ourselves

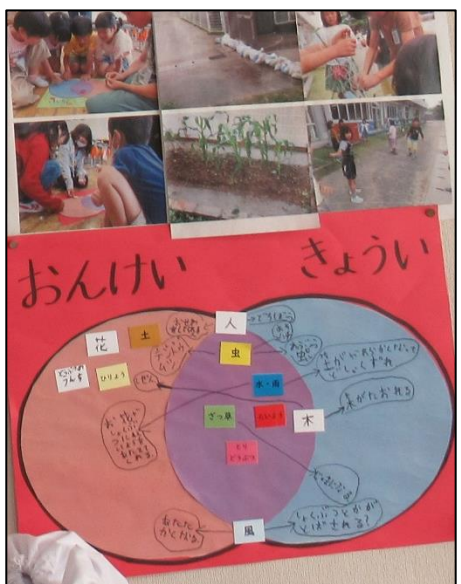
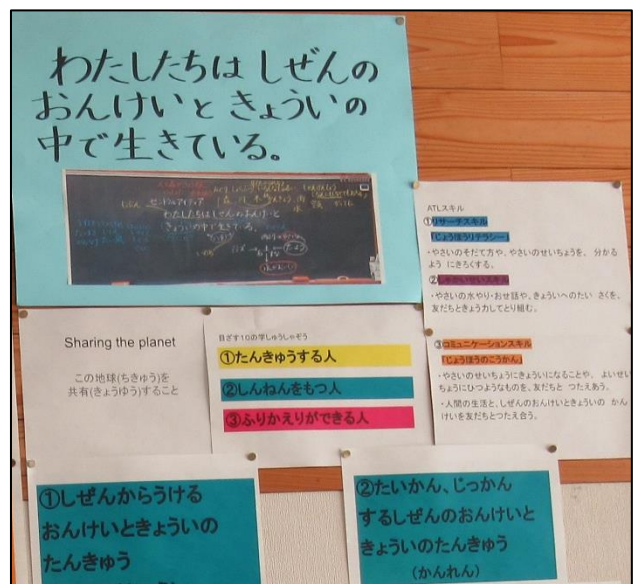
- 各学年6つのテーマを探究（6年間で36本のテーマ）
- 概念的理解：理解を深化させるための重要なものの見方（特徴、機能、原因、変化、関連、視点、責任）

# 大宮小学校 ～教室・廊下に掲示された学びのあとから～



上：低学年の教室前方の様子。10の学習者像を**児童なりに捉え**、絵に表したものが掲示されていた。

左：教室後方の掲示。特に重点的に扱うテーマや学びのスキル等が示され、「おんけい」などの**難しいと思われる言葉もそのまま使う**。写真からは、体験活動の充実も伺える。



# 大宮小学校 ～学校・家庭・地域で共有する～



2年生通信 10月31日 2年団 No. 19

2学期2本目のユニットについて

2学期2本目のユニットが始まりました。概要は、以下の通りです。このユニットでご協力いただきたいことは、表の一番下に掲載しております。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

テーマ	「Where we are in place and time.」（私たちはどのような場所と時代にいるのか）
セントラルアイデア	「町は時間的空間と場所的空間でできている」
探究の流れ「重要概念」	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地図表現の探究「機能」</li> <li>(2) 地域と自分との関わり方の探究「関連」</li> <li>(3) 自分たちの町「香北」の探究「特徴」</li> </ul>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元「香北」の町探検に行き、思ったことや感じたことをもとにマッピングをしながら、地図表現について理解する。また、方角ごとに特徴があることを捉えながら、位置を確かめ、オリジナルマップにまとめる中で、地図記号を理解する。</li> <li>・インタビューを通して、香北の地域的行事や伝統、文化財等を知る中で、地域が大切にしてきたことが何なのか、どのような思いで大切にしているかを考え、地域と自分たちが密接に関わっていることを理解する。</li> <li>・町探検やインタビューを通して、自分が感じたことも踏まえながら香北について考える中で、香北にはどのようなよさや守るべきものがあるか理解する。</li> </ul>
目指す10の学習者像	<p>心を開く人：町探検等で実際に見たり聞いたりして、「香北」のよさを見つけようとする人。</p> <p>コミュニケーションができる人：町探検を通して、出会った方々に進んで挨拶や質問をしたり、友達と協力して香北の町について紹介したりする人。</p> <p>振り返りができる人：学習してきたことを、絵地図やミニポスターに絵や言葉で表現して振り返る人。</p>
ALTスキル	<p>社会性スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検中に困っていることを友達と共有しながら探究を進めたり、地図作成において協力したりしている。</li> </ul> <p>コミュニケーションスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にインタビューしたり、リサーチしたことを発表したりしている。</li> </ul> <p>リサーチスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検に行き、見たり聞いたりして香北のよさを見つけている。</li> <li>・分かったことや気付いたことを地図やポスターにまとめている。</li> </ul> <p>★上記【学習内容】の下線部や以下の項目について、お子さんと一緒に話してみてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 香北の町の特徴について（小学校を中心にして、北側には〇が多い）</li> <li>② 香北に長年受け継がれている行事や伝統。また、どのような思いで続けているか。</li> <li>③ 他の地域にはない香北のよさ、これからも守っていききたい場所</li> </ol> <p>★このユニットでは、たくさん探検に出かけます。長距離を歩くため、まだ小さい子どもたちには、疲れが次の日にでます。連絡帳に「探検」と書かれた日は、早めに寝させてください。</p>

上：図書室。学習者像が校内の至るところに掲示されていた。

右：保護者向けのお便り。学習者像や学びのスキルなど、子供の学びが**家庭とも共有**されていた。

# 香北中学校 ～教科学習～

香北中学校で取り組むMYP（中等教育プログラム）は、**8つの教科の学習を設定**しており、学習指導要領で示された9つの教科との関係を次のように整理している。

MYPの教科	学習指導要領の教科
言語と文学	国語
言語の習得	英語
個人と社会	社会
理科	理科
数学	数学
アート	美術・音楽
保健体育	保健体育
デザイン	技術・家庭

# 香北中学校 ～英語教育～

香北中学校の英語の学習（週4時間）は、**基本的に英語で行う**。ただし、**生徒の発達の段階や英語運用能力に応じて、日本語を使用することがある**。英語の学習は**3つのレベル**に応じた授業を受けることができ、**各レベルには2つのフェーズ**がある。フェーズが違うからといって教室が分けられたり、担当の先生が変わったりするわけではない。

Level (レベル)	Emergent communicator		Capable communicator		Proficient communicator	
Phase (フェーズ)	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	フェーズ 4	フェーズ 5	フェーズ 6
CEFR	PreA1 A1-1 A1-2	A1-3	A2-1	A2-2	B1	B2

※言語の枠や国境を越えて、言語運用能力を同一基準で測ることができる国際基準

# 香北中学校 ～学際的単元～

学習の内容が複数の教科にまたがっている単元のことを、**学際的単元**とっている。学際的単元は、それぞれの教科で学んだことを関連付けて考えることでより深い理解へと進むことを期待して行われている。

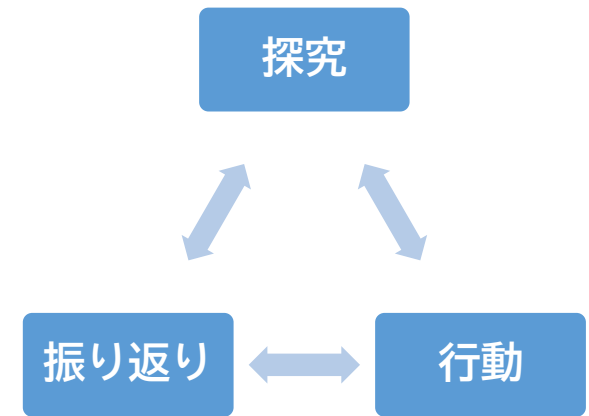
令和4年度に、香北中学校で実施した学際的単元は、次のとおりである。

1年	理科×数学	物質の状態変化 ～物質を数理的な観点と科学的な側面から分析しよう～
2年	音楽×美術	アーティストになろう！ ～風景画と音楽を重ねて～
3年	国語×保健体育	私が私である理由 ～私たちはどのようにして自分の意見を持つのか～

※年度によって、実施される教科や内容は異なる。

# 香北中学校 ～IBの探究型学習①～

**授業では「探究する」こと**（「なぜ？ どうして？ どうやって？」と疑問をもち、様々な視点から考えて深掘りすること）を大切にしている。すべての学習において、右のサイクルを意識しながら取り組むことで、サイクルを身に付け、卒業後も使える「生きた学び」になると考えていく。



右の**16の重要概念**を授業の中心において学習を進めている。既習内容や他教科等、社会問題などと結び付けて考えたりすることができる。

美しさ	変化	コミュニケーション	コミュニティー
つながり	創造性	文化	発展
形式	グローバルな相互作用	アイデンティティー	論理
ものの見方	関係性	システム	時間、場所、空間

# 香北中学校 ～IBの探究型学習②～

「先生や親に言われるから」「教科書に載っているから」という学習の動機では、成長はあまり期待できない。何のために学習しているのか、適切に理解した上で学習するために、右の「**グローバルな文脈**」に基づいた学習に取り組むことで、学習した内容や学習する意味を、より自分事として捉えることができるようになる。

**ATLスキル**は、あらゆる学習の場面で活用される。香北中学校では「主体的に学習に取り組む態度」の評価にも取り入れている。普段の行動やふるまいでも意識して、自分の成長につなげている。

アイデンティティと関係性

空間的・時間的位置づけ

個人的表現と文化的表現

科学技術の革新

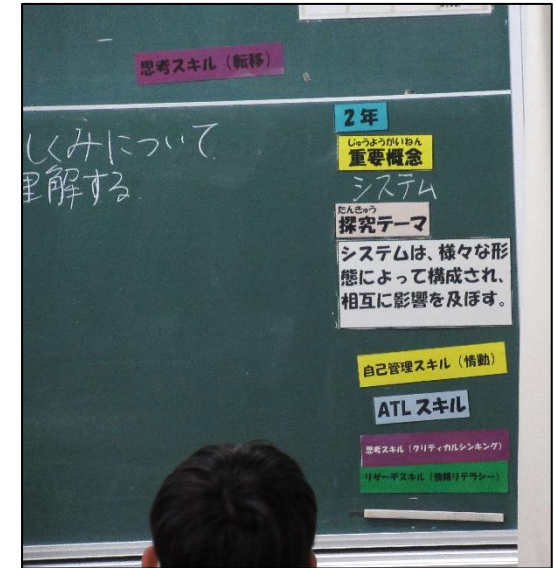
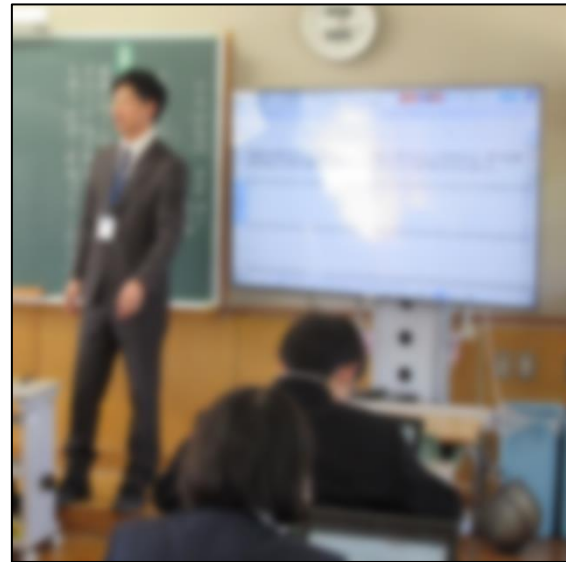
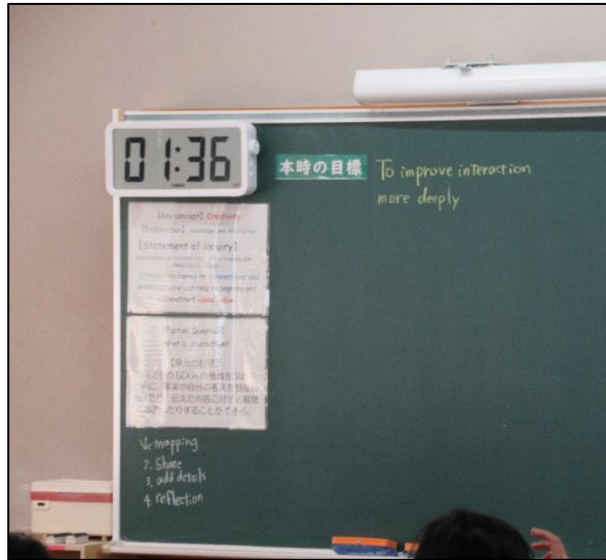
グローバル化と持続可能性

公平性と発展

ATLスキルのカテゴリー	MYPのATLスキルクラスター
コミュニケーション	1 コミュニケーション
社会性	2 協働
自己管理	3 管理調整
	4 情動
	5 振り返り
リサーチ	6 情報リテラシー
	7 メディアリテラシー
思考	8 批判的思考 (クリティカルシンキング)
	9 創造的思考
	10 転移



# 香北中学校 ～生徒と共有する～



英語（左上）、国語（中）、理科（右上）、数学（左下）の4教科を2～3分ずつ参観した。

どの授業も、探究テーマや概念、ATLスキルが掲示されるなど、**生徒との共有**が図られていた。

# 香北中学校 ～職員間で共有する～



「チーム会」の様子。体育の授業について、音楽や美術の担当とともに、授業づくりについて話し合っている。このような会が週2～3回、勤務時間内に行われる。

# 高知市立土佐山学舎 ～概要・背景～

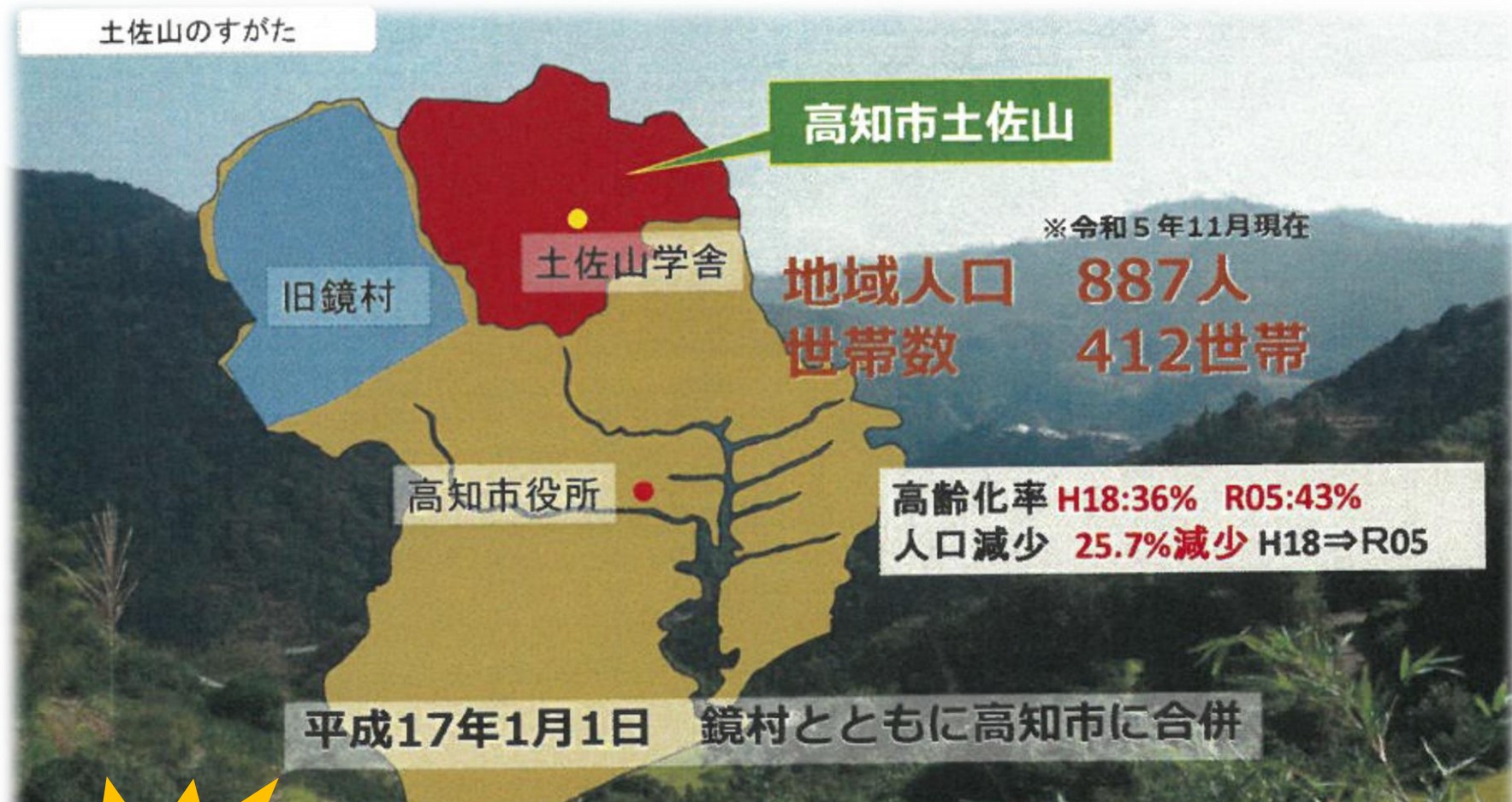
ふるさとに誇りをもつ人材の育成：土佐山学



- ◆学校教育目標  
ふるさとに誇りをもち、  
将来をたくましく豊かに  
勇気をもって生き抜く  
児童生徒の育成
- ◆児童生徒数 144人  
(校区外通学者74人)
- ◆教職員数32人

- ・義務教育学校土佐山学舎開校10年目
- ・生活科・総合的な学習の時間で展開される土佐山学  
(2023年度博報賞・文部科学大臣賞受賞)

# 土佐山学舎 ～高知市土佐山～



集落存亡の危機  
限界集落

平成23年3月 土佐山百年構想  
教育 社学一体・小中一貫教育プロジェクト  
校舎の改築 特色ある教育

# 土佐山学舎 ～コンセプト・利点～

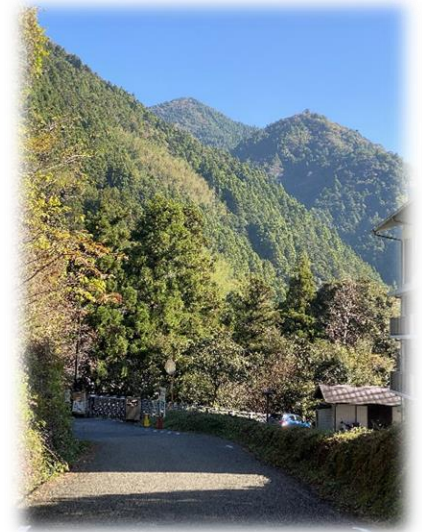
## ◆土佐山学舎のコンセプト

- ・ 学校が、地域活性化の中核・後押しに！
- ・ 中山間地域の教育モデルとして！
- ・ 校区という概念を変える！あえて中山間に子供たちを！
- ・ 学びの流れ・教育課程の弾力的運用 魅力ある学校！
- ・ 利益の双方性！地域とともに！

**「選ばれる学校・土佐山で学びたい」意識改革**

## ◆土佐山学舎での小中一貫教育の利点

- 小規模校の強みを生かした教育を！
- 先進的な教育モデルとなる学校を！
- 大自然を学習の舞台に！
- 地域ぐるみ・社学一体の教育風土を！



# 土佐山学舎 ～9年間の学びのストーリー-土佐山学～

学年	テーマ	学習内容 ※（ ）は説明より	時間
1年生	土佐山に親しむ	土佐山の自然に親しもう（土佐山の鮎・串・名人、鮎の放流、「鮎を食べたい」）	25
2年生		土佐山の名人に会ってみよう（野菜、パン、ゆず）	23
3年生	土佐山を知る	土佐山の魅力を紹介しよう（土佐山の史跡めぐり）	70
4年生		ふるさとの川を未来につなげよう（川は本当にきれいなのか、環境保全）	70
5年生	土佐山を見つめる	つなごう！土佐山の魅力（米作り、米粉にしたい、アレルギー対応商品30分完売）	70
6年生		広げよう！土佐山の魅力（土佐山の木は使えない（コスト）、新1年生の引き出しに）	70
7年生		案内しよう！自慢の土佐山（土佐山の食の追究、高知伝統の皿鉢料理）	50
8年生	土佐山に貢献する	地域活性化プロジェクト（ゆずを追究、ゆず祭り）	70
9年生		地域貢献プロジェクト（観光客を誘致する、家庭・地域も一緒に授業）	70

## ◆ゆず祭りの開催

土佐山地域の特産品であるゆずをアピールするために、地域に向けてゆず祭りの開催を提案。祭りの企画や運営はもちろん、**ゆずを使った食品開発**をしたり、企業からの支援をいただくために、**いくつかの企業に出向き、祭りの企画に関するプレゼンを行い、支援を受けることができた。**さらに、**高知県知事や高知市長に、直接交渉・依頼し、当日の出席について約束をもらうことができた。**平成30年度に。高知市中心市街地にある「**ひろめ市場**」で開催し、**大盛況**であった。ゆず祭りは令和3年度で4回目を迎える。

## ◆土佐山ツアー

土佐山地域への交流人口を増やすため、地域内を巡る観光ツアーを企画・立案し、実際に旅行会社に商品として一般の方へ販売してもらった。**ゆずの収穫体験から地域の食材を利用した昼食や買い物など、土佐山学を学んできた9年生だからこそ、土佐山色満載のツアーが完成！**当日は、**23名のお客さんに土佐山をたっぴりと味わっていただき、最後は涙涙のツアーになった。**令和3年度は、**外国人を対象にしたツアー**を開催し、**英語を使っての地域の案内や日本文化の説明**を行った。

前期

英語に慣れ親しむ

中期

英語を聞く・話す

後期

英語で表現する

- ・ グローバルな視野と豊かな表現力の育成
- ・ わが国、わが郷土の文化や伝統を重んずる態度の育成
- ・ キャリア教育を見据えた確かな英語力の育成

1年生からの継続的な指導で、英語検定2級を目指している。令和4年度は、2級を2人、準2級は9人が取得している。





# 福山市立常石とともに学園～概要・背景～

## 公立初のイエナプラン教育実践校



- ◆学校教育目標 自立、共生、自己実現
- ◆児童数140人（学区外7割）  
※特別支援学級設置
- ◆教職員数23人

- ・令和2年度から1～3年の異学年集団による教育活動を先行実施
- ・令和4年度4月からイエナプラン教育校に完全移行
- ・地元企業が新しい学校づくりへの協力を申し出  
常石小学校の施設を活用して、イエナプラン校を創設

# 常石ともに学園

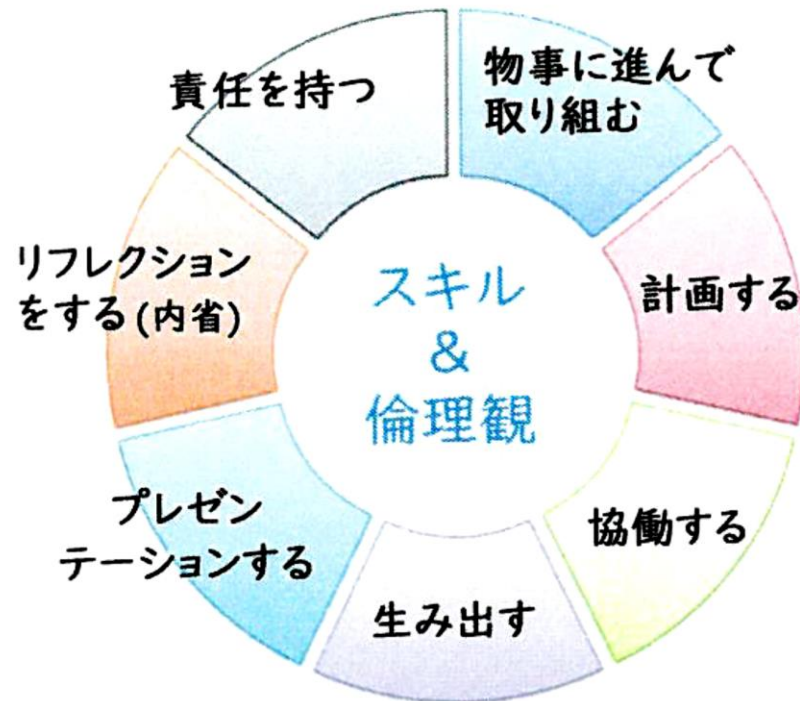
# ～めざすところ～

## ◆めざす子供の3つの姿

**自立**  
**共生**  
**自己実現**

学ぶ面白さを実感し、自ら考え学ぶ子  
持ち味を生かし合い、協働する子  
自己を認識し、自分らしく成長する子

## ◆身に付けさせたい 21世紀型 “スキル&倫理観”



# 常石とともに学園 ～20の原則～

## 人間について（めざす理想の人間像）

- 1 世界にたった一人しかいない。（かけがえのない価値）
- 2 自分らしく成長していく権利を持っている。
- 3 自分らしく成長するために、他者、自然や文化、様々なものとの関係を大切にしなければならない。
- 4 その人にしかない人格を持った人間として受け入れられ、尊重されなければならない。
- 5 文化の担い手、改革者として受け入れられ、尊重されなければならない。

## 社会について（理想の社会像）

- 6 それぞれの人がもっている、かけがえのない価値を尊重しあう社会をつくる。
- 7 それぞれの人のアイデンティティを伸ばす社会をつくる。
- 8 人と人との違いやそれぞれの人の成長や変化を受け入れる社会をつくる。
- 9 地球と世界を大事にし、よりよい社会をつくる。
- 10 自然や文化の恵みを、未来に生きる人たちのために、責任を持って使う社会をつくる。

## 学校について（その実現に向けた学校像）

- 11 かかわっている全ての人にとって、独立かつ共同して作る組織。社会からの影響も受けると同時に、社会にも影響を与える。
- 12 働く大人たちは、1から10までの原則を子供たちの学びの出発点として仕事をする。
- 13 教えられる教育内容は、実際の暮らしの世界、知識や感情を通して得た経験の世界、社会が持っている文化の恵みの中から引き出される。
- 14 教育活動は、教育学的によく考えられた道具や環境を用意して行う。
- 15 教育活動は、**対話・遊び・仕事（学習）・催しの4つの基本的な活動**を交互にリズムカルに行う。
- 16 子供たちがお互いに学び合い、助け合いができるように、**年齢や発達の違う子供たちを組み合わせさせたグループ**をつくる。
- 17 一人でできる遊びや学習と、グループリーダーが指示・指導する学習を交互に行う。
- 18 学習の基本である、経験・発見・探究と、ワールドオリエンテーションが中心的な位置を占める。
- 19 子供の行動や成績の評価は、成長の過程を見るという観点を大切にし、子供自身と話し合いをする形で行う。
- 20 何かを変えたり、より良いものにしたたりする活動を常に行うことが必要。  
そのためには、実際にやる、それについてよく考えることを、いつも交互に繰り返す態度が大切。

# 常石ともに学園 ～特徴①異学年学級～

- 1～3年生、4～6年生の3学年による異年齢集団が基本単位
- 1～3年生：低学年3クラス（担任6人）  
4～6年生・高学年3クラス（担任4人）  
特別支援学級4クラス（担任4人）
- 学級編成は3年間持ち上がり（毎年1/3は入れ替わり）
- 年長者が年少者を**助ける、教えることが日常的に**
- 個性や発達の**違いが受け入れられる**ように
- 教科等の学習で、**学年を超えた学び**の展開が可能に

# 常石ともに学園 ～特徴②4つの基本活動～

対話	<p>個人を尊重する気持ちを育み、学級を信頼関係のある集団に育てていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ サークル対話は円座になって行います。</li> <li>◆ 朝と帰りの時間だけでなく、一日の中で必要に応じて行います。</li> </ul>	
遊び	<p>「遊び」そのものが「学び」であり、考える力や協働する力を付けていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 一日の教育活動の中に「遊び」を入れていきます。</li> <li>◆ 様々な場所で、子供たちがやりたいことを自由に選択して遊ぶことができる環境づくりを行います。</li> </ul>	
仕事	<p><b>ブロック アワー</b> (自立学習 の時間)</p>	<p>子供が学習計画を立て、自分で学び続ける力を付けていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子供の状況に応じて学習を進めます。</li> <li>◆ 自立学習や教師による指導、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを、組み合わせで行います。</li> </ul>
	<p><b>ワールド オリエン テーション</b> (教科横断的 に探究する 学びの時間)</p>	<p>生きた本物の題材から問いを見出し、探究し続ける力を付けていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 教科の内容を関連付けて学習していきます。</li> <li>◆ 本物と問いと向き合い、異年齢集団で協働的に探究していくことで、教科・学年の枠を超えて学んでいきます。</li> </ul>
催し	<p>子供たちが喜びや悲しみなどを一緒に分かち合います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 運動会や学習発表会などの行事だけでなく、誕生日のお祝いをしたり、その週の学びを簡単なプレゼンテーションや演劇にして発表したりします。</li> <li>◆ 他の学年や保護者、地域の方々と共有したりすることも行います。</li> </ul>	

# 常石ともに学園 ～学びの様子①低学年：道徳～

## 子供たちはあちこちで活動、やっていることも様々

・10人ぐらいの児童が車座になって語り合っていた。ベンチの上で友達と向かい合って座る子供、床に座り込む子供、1人で教科書を読む子供、3人で一冊の教科書を読む子供、先生の膝の上から離れない子供など様々。ホワイトボードの前で積極的に対話している子供たちもいれば、離れたところから発言せずに眺めている子供や、近くの友達と話している子供など、様々であった。

・車座の外では、それぞれ一人ずつタブレットを使って活動する子供が見られた。同じく車座から離れたところで、ペアで話し合いながら活動している姿も見られた。

・教師の問いかけに対する子供の反応も様々。

・教師は、車座やペアなど、子供たちのいるところを行き来しながら、見守り・声かけをしていた。

# 常石ともに学園 ～学びの様子②高学年：算数～

## 一律ではない、一人一人の子供たちに応じた学び方

- 算数「単位量あたりの大きさ」について学習していた。
- 机がグループの並びになっている。黒板はなく、ベンチや小さめのホワイトボードがいくつもあった。
- ホワイトボードの前にベンチを並べ、教師と子供6人が考えている。3人の子供は熱心に先生の話の話を聞いているが、他の3人は友達と話したり、何かの資料を見たりしている。
- タブレットを開き、一人で学ぶ子供も多く見られた。
- ベンチに子供同士くっついて、語り合っている様子も見られた。
- 高学年も、自分の立てた目標や計画に沿って、好きな場所で自分のペースで学習に取り組む姿が見られた。

# 常石とともに学園 ～学びの環境～

多様な学びに柔軟に対応できる空間を目指している。



- 左：**教室はリビングルーム**。授業中も好きな場所で過ごす。  
どの教室もベンチがあり、いつでもみんなで語り合える。
- 中：**廊下で学ぶ様子が子供も教師の見られる**ように、教室と廊下を仕切る扉、窓、壁など大部分は透明で、見通しがよい。
- 右：催し、読書、語り合いなど、多様な学びができるオープンスペース。今回の説明、質疑応答もこの会場で行われた。



# 常石とともに学園 ～学校図書館の充実～

学校図書館のリニューアルについては、プロ（児童文学評論家）に依頼し、広島県全体で、計画的に取り組んでいる。



白が基調のインテリアは明るく、すっきりと整えられた書架に、子供たちが興味をもちそうな本が、書店のように表紙が見えるように置かれている。寝ころべるカーペットや、くつろげるソファ（人形も！）もあり、**リラックスできる**スペースになっていた。

# 福山市立常石とともに学園 ～その他～

- **市内枠優先で、学区外通学者は7割**（保護者が送迎）。  
※ 学区内で通学できない児童もいる。学区内には想青学園（義務教育学校）がある。
- **教師の役割分担は、基本は教科で授業を分担**しているが、低学年クラスは、1年生に配慮するようにしている。
- **決まった時間割はなく、子供自身が自分で計画を立てる。**  
具体的には、まずワールドオリエンテーション（教科横断的な探究の学び）について考える。生活や総合的な学習の時間と考えてよいが、理科などの内容も入ってくることが多い。ただし、当然、各教科の学習内容をすべて落とし込むことはできないので、ブロックアワーの学習計画を立てる。子供自身が一週間または翌日分、自分で教科の計画を立てる（高学年は基本一週間分の計画を立てるが、子供によっては1日単位になることもある。低学年は翌日分の計画を立てる）。

# まとめ、主な参考文献

- ◆ 探求の学びの充実
- ◆ 教科横断的な取組
- ◆ 総合的な視点をもつ
- ◆ 地域と共有、協働
- ◆ 子供たちが主体性を発揮
- ◆ 委ねる、待つ、ファシリテートする教師の姿勢

- ・ 宮田純也編著『スクールシフト』明治図書、2023年
- ・ 安西祐一郎『教育の未来』中央公論新社、2022年
- ・ 安宅和人『シン・ニホン』ニュースピックス、2021年
- ・ 山口裕也『教育は変えられる』講談社、2021年
- ・ 野本響子『子どもが教育を選ぶ時代へ』集英社、2022年
- ・ 石井英真編著『流行に踊る日本の教育』東洋館、2021年
- ・ 中島さち子『知識0からのSTEAM教育』幻冬舎、2022年
- ・ 上阪徹『子どもが面白いがる学校を創る』日経BP、2022

# 資料1-①

## 国際バカロレア教育（IB教育）

### ◆国際バカロレア（International Baccalaureate）とは？

IBとも呼ばれる。非営利団体、国際バカロレア機構（本部：ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム。現在、世界の約160の国・地域の5600校以上で実施（令和5年3月時点）されている。以下の**4つのプログラム**がある。

- ・ PYP（プライマリー・イヤーズ・プログラム）、対象：3～12歳
- ・ MYP（ミドル・イヤーズ・プログラム）、対象：11～16歳
- ・ DP（ディプロマ・プログラム）、対象：16～19歳
- ・ IBCC（キャリア・プログラム）、対象：16～19歳

※DPIは、国際的に通用する大学入学資格が取得可能。IBCCは、主に就職や専門学校進学を目指す生徒のための、社会に出て役立つスキルを習得させる。

### ◆国際バカロレア教育が生まれた背景は？

外交官や駐在員などの子女がインターナショナルスクール卒業後、様々な国の大学に円滑に入学できるよう、世界共通の大学入学資格及び成績証明書を与えることを目指した。

### ◆なぜ、今、国際バカロレア教育なのか？

現在の学習指導要領等では、予測困難な時代においても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する「生きる力」を育むことが目標とされている。

また、「次期教育振興基本計画について（答申）」（令和5年3月8日中央教育審議会）において、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成が、今後の教育政策の基本方針の1つとなっている。

このような状況において、文部科学省は、IBの要素を取り入れることが、学習指導要領に示される主体的・対話的で深い学びの実現のための授業実践の参考になることや、IBによって育てられる人材が、グローバルな視野をもち、将来的に地域の活性化に貢献することが期待されるため、文部科学省はIBの普及促進に力を入れている。

# 資料 1 ー ②

## 国際バカロレア教育（IB教育）の特徴

### ◆ IBの目的は？

多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としている。特に、高く評価されているのが**全人教育**。学力を重視するだけでなく、知識と教養に加え、人間力を育むことも求められている。

### ◆ 国際バカロレアの10の学習者像とは？

IBでは、**国際的な視野をもつ**人間の育成を目指して、10の学習者像を示している。

- 探究する人
- 知識のある人
- 考える人
- コミュニケーションができる人
- 信念を持つ人
- 心を開く人
- 思いやりのある人
- 挑戦する人
- バランスのとれた人
- 振り返りができる人

### ◆ IBのカリキュラムとは？

4つのIBプログラムは、幅広く、バランスのとれた、概念的で、関連性の高い、きめ細やかかつ発達段階に適したカリキュラム、またはその枠組みを提供している。

またそれぞれにおいて、最終プロジェクト（PYPでは発表会、MYPではコミュニティプロジェクトなど）を完了させる必要があり、児童生徒が自身の知識、理解、スキルを披露する機会となる。

さらに、様々な形の評価がカリキュラムと一体となり、継続的に実施されており、IB認定校では、児童生徒の学習を評価するために多様な方法とツールが用いられる。

### ◆ IBの指導の方法と学習の方法とは？

IBプログラムを支える**指導の方法は、次の6つ**である。

- 探究を基盤とした指導
- 概念理解に重点を置いた指導
- 地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導
- 効果的なチームワークと協働を重視する指導
- 学習への障壁を取り除くデザイン
- 評価を取り入れた指導

学習の方法は、**学び方を学ぶことが児童生徒の教育の基本**であるという信念に基づいている。相互に関連する**学ぶためのスキルは次の5つ**。

- 思考スキル
- コミュニケーションスキル
- リサーチスキル
- 自己管理スキル
- 社会的スキル

## 資料2

# イエナプラン教育

### ◆イエナプラン教育とは？

イエナプラン教育とは、子供たちを異年齢のグループに分けてクラスを編成し、子供たち一人一人を尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育。独自の教育コンセプト「20の原則」に基づいて、個のニーズに合わせて最適化していく。

### ◆イエナプラン教育が生まれた背景は？

20世紀初頭にドイツの教育学者、ペーター・ペーターセンが創始し1960年代頃からオランダで広がった。現在、オランダでは、イエナプラン教育を展開する小学校が200校（全体の約3%）以上あるといわれている。オランダで拡大したイエナプラン教育が日本でも紹介され、2000年代後半から、日本でもイエナプラン教育の注目が高まっていった。

### ◆なぜ、今、イエナプラン教育なのか？

最近では、令和の日本型学校教育の姿として、指導の個別化、学習の個性化を求める動きの中で、イエナプラン教育が注目を集めている。

### ◆イエナプラン教育の学びの特徴は？

#### ○異年齢集団でのグループ編成

- ・1年生から3年生、4年生から6年生の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行う。
- ・年長者が年少者を助けたり、教えたりということが、より日常的に行われるようになる。
- ・個性や発達程度の違いが当たり前のように受け入れられるようになる。
- ・教科等の学習では、学年を超えた学びの展開が可能となる。

#### ○4つの基本活動に基づいた時間割

- ・4つの基本活動（対話・遊び・仕事・催し）をもとに教育活動を行う。
- ・機械的に時間を区切るのではなく、子供の状況に応じて、活動の時間を延ばしたり縮めたりしながら行う。
- ・リズムカルに活動が循環できるように、学校の日課を設定していく。